

Xross Innovation BOSAI キックオフミーティングに参加しました (2025/8/28)

テーマ：地震火災被害削減、官学民金連携、仙台防災枠組、感震ブレーカー

URL：https://irides.tohoku.ac.jp/media/files/_u/topic/file/release_xrossbosai_20250821.pdf

会場：仙台市役所

2025年8月28日(木)、仙台市が主導し、災害科学国際研究所を含む11の企業・団体が参画する新たな公民連携組織「Xross Innovation BOSAI」が発足し、仙台市役所でキックオフミーティングが開催されました。

この組織は、宮城県が公表した「長町ー利府線断層帯地震」の被害想定において、仙台市内で火災等による死者数が845人にのぼると予測されていることを受け、地震火災による被害を減らすことを喫緊の課題として設立されたものです。

会合では、地震の揺れを感知して自動で電気を遮断する「感震ブレーカー」の設置促進や、地震火災を防ぐための具体的な行動を市民に定着させるための連携を確認しました。今後3年間で、感震ブレーカーの設置率を30%以上に引き上げ、火災防止行動の認識率を90%まで高めることなどを通じ、仙台市の死者数を半減させるという目標を掲げています。この取り組みは、2015年に採択された国連の防災指針「仙台防災枠組」をベースとしています。本学を代表して参加した今村文彦教授（津波工学研究分野／副学長（社会連携・校友会・基金担当））は、「大学で得た研究成果を反映させ、貢献していきたい。どんなリスクがあり、どんな対策をすればそのリスクを軽減できるか伝えていきたい」と述べ、科学的知見に基づく連携の重要性を強調しました。このような取り組みは世界初ともいわれ、このキックオフミーティングはマスコミの取材もあり、各社より報道されています。

当研究所は、本組織の活動を通じて、研究成果の社会実装を加速させ、市民一人ひとりの防災意識と行動変容を促し、より安全・安心なまちづくりの実現に貢献してまいります。



仙台副市長、アイリスオーヤマ社長、七十七銀行頭取、東京海上日動常務等参加者一同



マスコミの囲み取材を受ける今村教授

文責：鎌田健一（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）